

JDL AI-OCR による改善事例

■ 事務所情報

事務所名：古谷佑一税理士事務所 **所在地**：愛媛県西予市

人員：古谷先生（38歳）、職員5名

顧問先：法人 92件（自計化43%）
個人 165件（自計化41%）

対応地域：愛媛県全域（広島県、高知県の一部）



事務所の課題

- 課題① 顧問先の増加により、記帳代行などの業務量が急増していた。
- 課題② 顧問先との書類の受け渡し方法がバラバラで、書類管理が煩雑化していた。
※通帳やレシート等のコピーやPDFをメール、画像や写真をLINEで受け取るなど、顧問先ごとに、様々な授受形式のため、チェック漏れが発生していた。
- 課題③ 顧問先からの助成金や補助金、資金繰り管理など、本業以外の依頼が増加。

対策と効果

● 「JDL AI-OCR 仕訳入力システム」を導入し、記帳代行業を削減！

当初は、職員の利用が進まなかったが、今後のインボイス制度対応や、業務時間削減の必要性を考え、トップダウンで利用を促進！

利用回数を重ねるごとに、仕訳の精度も向上し、**入力時間の40%～50%削減に成功。**

→課題①を解決！（現在の記帳代行に対する、AI-OCRの利用割合は、81.3%）

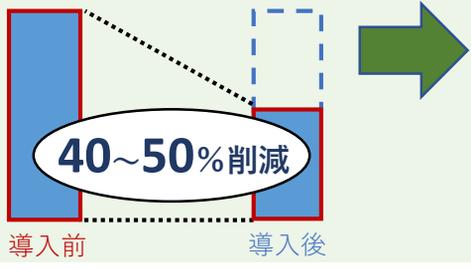


- ・2月からは、「JDL AI-OCR 確定申告入力システム」の利用も開始。医療費の領収書や、ふるさと納税等の寄附金受領証明書を自動化し、申告業務を軽減することができた。
- ・「Web POST BOX」※を活用し、書類の授受方法を統一！ →課題②を解決！

※ 顧問先とWebでダイレクトに様々なファイルの授受を行う仕組み。JDLセンターで、不正アクセスの管理を行うため、セキュアなファイル交換が可能。

今後の事務所ビジョン

AI-OCRによる入力削減効果



【削減された時間を、課題③に充てる】

これからは、顧問先への経営支援や、補助金／助成金の検討、資金繰り管理に力を入れていきたい。

- 事務所のサービスを高付加価値サービスへシフト
- 顧問先との連携強化で、双方の時間を削減
- AIと人の業務分担を明確化

■ Topics ～顧問先の獲得パターン～

Facebookやホームページからの紹介が多く、比較的、同世代の経営者が多い。面談した際は、事務所パンフレットを配布し、先生のスタンスを伝える。

- 「事務所を知ってもらう」ために、「読んでもらえる資料」を作成。（オシャレ、分かりやすい、人柄や仕事柄など、記載の工夫）



▲事務所パンフレット